

〔源氏物物給合十七〕前齋宮の御参りのこと、中宮の御心にいれてもよほし聞え給略○中院はいと口おしくおぼしめせど、人わろければ、御せうそなどたえにたるを、その日に成て、えならぬ御よそひども御くしのは、こうちみだりの箱、かうごの箱ども、よのつねならず、くさくさの御たき物ども、くぬえかう、またなきさまに、百ぶのほかをおほくすぎにほふまで、心ことにと、のへさせたまへり、おとゞみ給ひもせんにと、かねてよりやおぼしまうけけん、いとわざとがましかめり、殿もわたりたまへるほどにて、かくなんと女別當御らんせさす、たゞ御くしのはこのかたつかたを見給に、つきせずこまかになまめきて、めづらしきさまなり、さしぐしのはこのこ、ろばに、わかれぢにそへしをぐしをかごとにてはるけき中と神やいさめし、おとゞわれを御らんじつけて、覺しめぐらすに、いとかたじけなくいとおしくて、わが御こ、ろならひのあやにくなる身をつみて、かのくだり給しほど、御心におもほしけんこと、かう年へてかへり給て、其御心ざしをもとげ給べき程に、かゝるたがひめのあるをいかにおぼすらん、御位をさり、物まづかにて世をうらめしとやおぼすらん、

〔和泉式部集五〕さしぐしのはこにかきて

さまゞに神をぞいのるさしぐしのさしはなる、が心ほそさに

〔狭衣一〕くしの箱やうのもの、くるまにとりいれなどしてたつ、

〔延喜式五齋宮〕櫛一具黄楊櫛案一脚略○中

右齋内親王神忌御服料

〔延喜式十内匠七〕加茂初齋院并野宮装束

櫛机一具、尺長一尺五寸、廣一尺三寸、足高九寸、料波多板一枚、檜樽半材、阿膠十兩、炭二斗一升、切釘廿隻、漆一升二合、掃

墨三合、燒土三合、綿六兩、絹一尺、手作布一尺、單功九人、漆三六人、